

## 杉森会長 記者会見 発言要旨

(2022年5月23日)

### 1. 石油連盟会長の再任

本日開催された理事会において、石油連盟会長に再任された。2050年カーボンニュートラルに向けた取り組みに挑戦しつつ、同時に石油製品の安定供給確保に万全を期す、という2つの課題に対して、引き続き、積極的に取り組んでいく所存である。

### 2. 石油連盟の定款変更(新たな事業領域)

気候変動対策への対応として、本日、石油連盟の定款を変更する総会決議を行った。具体的には、石油連盟の新たな事業領域として、石油に加え、合成燃料、水素、その他の新燃料等を含めることを明確にした。このような石油連盟の見直しに関する定款変更は、1955年の石油連盟設立以来、実質的に初めてのこととなる。今後、組織改革も順次進めていき、石油連盟として、気候変動対策に向けた取り組みを強化して参る。

### 3. ロシア産石油の原則禁輸

今月9日のG7首脳会合を踏まえ、岸田首相は、ロシア産石油の原則禁輸を表明した。日本政府としてG7と緊密に連携していくことは極めて重要と考えており、石油業界としても、政府の方針を踏まえ、代替調達を検討する等して石油の安定供給確保に努めて参る。

### 4. 政府の燃料油価格激変緩和事業

政府が4月26日にとりまとめた「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」に基づき、補助金支給上限や対象油種の拡充を行った上で、今年度上半期中への制度の延長がなされた。石油各社は、これまで通り補助金相当を全額卸売価格に還元し、政府が講じる施策について、連携して対応していく所存である。

### 5. 原油価格は向こう1か月100ドル台を中心に荒い値動きを予想

ドバイ原油価格は、4月後半、IMFによる世界経済成長見通しの下方修正、上海でのロックダウン長期化等により、1バレルあたり100ドルまで下落したが、5月4日にEUがロシア産石油を年内に禁輸する案を発表したことを受け、108ドルまで再度上昇した。

しかし、その後発表された中国貿易統計で輸出の伸びが鈍化、FRBによる積極的な金融引き締め政策も相まって景気減速が懸念され、5月10日には103ドルに軟化した。

ロシア産石油供給減少懸念と景気減速見通しで一進一退となっていたが、5月16日に上海市が6月の都市封鎖解除方針を示したことで、過度な景気減速懸念が後退し、足元は108ドルまで上昇している。

このような状況の中、今後のマーケットに影響を及ぼす材料として、ウクライナ侵攻に伴うロシアへの経済制裁動向、今後の世界経済見通し、次回OPECプラス会合での議論内容、の3点について注目したいと考える。

結論として、原油価格は当面(向こう1か月)100ドル台を中心に荒い値動きが想定される。

以上